

# キャリアガイダンス・講師紹介

期日：6月5日(日)  
 時間：13:15～14:05  
 場所：突道高校3階の各教室  
 (大講義室・305～6教室、307～8教室)

## 「山陰職人の会」代表 小村和也 (にむらかずや)

私の建築家活動は現在、島根県を基盤に、北海道をはじめ埼玉、岐阜、兵庫、広島へと広がり、その活動を通して私自身多くのことを学ばせていただいています。

それぞれの地域のとおきの情報や、建築家として取組む住まいづくりのなかで培ってきましたさまざまな事柄をメルブックの形で皆様に提供したいと思いつり、この度の配信となりました。

情報化社会と言いつながら知りたい情報は案外届いてこないものですね。住まいづくりにしてもカタログ的な内容のものばかりで、私たちの知りたい情報がないのが実態です。

人生で一番大きな買い物である住まいづくりの情報があまり伝わってきません。そこで、私の知識や知恵というものを活用していただければと考え配信させていただきましたこととしました。よろしければご覧ください。



小村和也 建築家。中学時代から建築家を目指し、22歳の時に後に世界的な建築家となる安藤忠雄氏と出会い、以後10年間、安藤忠雄建築研究所を訪問し、設計の真髄に触れる。H15年～H19年島根県ソフトビジネスパークで活動。  
 作品：小樽市指定歴史的建造物遠藤又兵衛邸再生プロジェクトほか。一級建築士。

## マスター



いどとしては  
井戸俊治さん  
(有)ハーベスト

5-2-3

50歳。奥出雲町出身。  
23歳のときから松江市で飲食業を目指されました。

★起業  
「ぼくは最初から飲食業をめざしました。最初につめた店では、色々チャレンジしました。和食がメインなのですが、ピザを出したところ大好評でした。しっかりお召し上がりいただいたあとのピザなのですが『別腹』なんです。(笑)ほんとうのピザになっていたかどうか定かではありませんが、よるこでいただいたことがうれしかったですね。そんなチャレンジというのか、料理やおもてなしのコミュニケーションというのでしょうか、とにかく好きです。」平成5年にパー・ハーベストを開店されました。

★音楽のある店 ハーベスト  
ハーベストはいつも音楽で満ちています。「なつかしのレコードを楽しんでいただける店です。軽音楽からロック、インディーズ、オールディーズ、フォークなど沢山のジャンルのレコードを持っています。」自らも楽器を演奏し歌われます。年末には、毎年恒例の『多古鼻コンサート』に参加されています。「たまに仲間と一緒にライブをすると楽しいですね。徐々に仲間も増えてきてマリンパーク多古鼻(島根町)の年末の恒例行事にな



ってしまいました。(笑)」

### ★心の澳

この店には2代目3代目をはじめ若き起業家などの経営者がたくさん訪れます。「私自身が起業家としてこの店を立ち上げ、ここまで随分苦労しながらやってきたので、それぞれの経営者の悩みは分かるつもりです。創業者も大変ですが、事業を継承された後継者の方々も創業者とは違う苦しさがありますね。そんな経営者の方々の心の澳ともなればと思っています。もちろん色々な方々にお越しいただいています。」ハーベストはいつも笑いに満ちています。マスターとスタッフの方々の心地よい気遣いが感じられます。「私は現場を大切にしています。とにかくお客と向き合うことが大事なんです。だからカウンターの幅を50センチにしています。アナログです。お客の息使いが直接に伝わってきます。生意気なようですが、手助けしたいんです。みんな一生懸命生きていてがんばっています。私ができる手助けが、この店で楽しんでいただくことなんです。」冷静沈着な人柄ながら人を思いやる心が伝わってきました。

井戸俊治です。スタッフともどもお待ちしております。ぜひお越しください。

ハーベスト  
〒690-0006 島根県松江市伊勢宮町532  
ブラックビル1階  
TEL0852-28-2220  
FAX0852-24-7474



## 和菓子



こたにきくお  
小谷喜久雄さん  
(桂月堂)

2-1-2



昭和34年に桂月堂に入社され、以来50余年現役で活動していらっしゃいます。当初3年、店頭販売の後、小谷さんに洋菓子の技術修得が託されました。

東京の老舗の練とらや椿山と神神田資生堂で和菓子と洋菓子の製造技術を学ばれました。平成19年11月まで第5代工場長として活躍され、現在も顧問として工場の第一線で活動していらっしゃいます。就職した当時思い出し感慨深そうにお話しいただきました。身体が弱くおまけに就職難の時代。中学校の先生のお話で入社。「休みは月1回で、毎日午前5時30分から商店街が終わる午後11時まで働きました。寮で暮らしました。給料は3千円で、食事代の2千円とお小遣いの1千円です。ズボン一本買えなくなりました。ラーメンが一杯50円の時代でしたね。そんな毎日をご過ごしながら5年8か月経った時に東京での修行を託されたんです。」こつこつと積み上げてこられたことが開花するときがきました。桂月堂に新設された洋菓子製造を小谷さんに託されたのです。その晩からは、洋菓子研究会市長賞を過去2回受賞しておられることから分かります。当時主流だったバターケーキはファン



が多く、現在でも製造しておられるそうです。当時、洋菓子の製造販売の先駆となり、その後他の店も洋菓子を扱うようになったそうです。小谷さんの日常は、松江の三大銘菓のひとつである「薄小倉」の製造を女性の菓子職人さん方と取り組んでおられます。

「最近では女性の菓子職人が増えてきましたね。」小谷さんは人との出会いを求めてこられたそうです。それを充たしてくれたのは信仰の仲間との出会いだそうです。仏教とその仲間との出会いにより小谷さんの人生がより充実したものとなったそうです。「自分が変われば相手が変わる」縁起の法則や「まず人様」という教え、それを社会で実践する仲間との出会いにより、工場長という役割の重要性をより深く認識されたそうです。お客様、従業員の方々。社会に必要とされる仕事を成し遂げること。「私は会社でも世間でもよい人との出会いに恵まれました。」小谷さんのお話をお聞きし、人生とはひたむきさであり、関わる縁を大切にすることであることを学びました。

小谷喜久雄です。松江はお菓子どころです。是非、松江の銘菓をお召し上がりください。ご来店をお待ちしております。

(有)桂月堂  
〒690-0064  
松江市天神町97  
TEL 0852-21-2622  
FAX0852-25-0559

